



日本モルック協会
Japan Molkky Association

追加・変更ルールについて

(抜粋版)

普及・育成・競技部

2024年4月1日

Ver.1

新たに追加されたルールについて（抜粋）

2.1.道具の配置

- 大会においては、**モルック棒の最軽量と最重量の差は50g以内**であるべき。

2.3.試合の流れ

- コートの境界線が制限されている場合、**境界の外に倒れた（出た）スキットルは、たとえ立ち上がっていても、傾いていても、常に倒れたもの**とされる。
- 投擲後、倒れたり傾いたりしたスキットルを倒れた場所に立たせる。スキットルの底面が地面に接する点を固定したまま、その点を中心に直立させ、その後、数字が**モルッカーリに向くように回転**する。モルッカーリに近いスキットルから順番に立てていく。

3.4.境界線のある試合コート

- **スキットルの戻し方**が一部変更

5.8.モルッカーリの踏み越え

- 投擲者は、**何度も投擲エリアを出入りすることは認められる。**
ただし、投擲後と同じルールの下で出入りが許可される。（声をかけるなど宣言が必要）
- **モルッカーリを越えなければ、**スキットルを立て直す・スキットルの位置を確認するために、**投擲エリアを出ても良い。**

1. 解釈と範囲

この公式ルール(『規則』)は日本モルック協会(JMA)に認可されたものであり、JMAにより適宜修正・訂正されるものである。

規則はJMAにより認可または支援されている日本国内すべての大会に適用されるものである。この規則は、大会に参加する全ての者がモルックを楽しむために、過去の実績に基づいて一般的に受け入れられた原則を陳述したものである。

試合で起こりうる全ての状況に対応するものではなく、特異な状況において、最も適切な解決策を決定するのは主審の決断であることを前提とする。

ポイント！

- 毎年、8月に行われる世界大会開催期間中に、国際モルック連盟(IMO)の加盟国が集まって国際会議をします。その際に国際ルールの変更・追加について話し合われています。
- IMO会議の結果を受けてJMAが国内向けのルールを改定しています。
- 国内公式戦では、2024年6月に開催する**ジャパンオープンから適用開始**します。

2.基本規則

2.1.道具の配置概略

大会で使用するモルックセットを大会責任者が提供するか、私物の持ち寄りで行うかは、大会責任者が決める。

大会においては、モルック棒の最軽量と最重量の差は50g以内であるべき。

ポイント！

- 大会で使用するモルック棒の重さに関する規定が定められました。
- 公式大会では、この規定を遵守します。



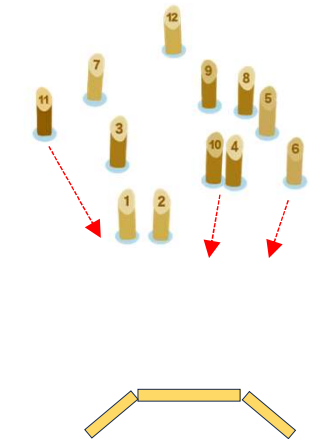
モルック
(molkky)

2.3.試合の流れ

- コートの境界線が制限されている場合、**境界の外に倒れたスキットルは、たとえ立ち上がっていても、傾いていても、常に倒れたもの**とされる。
- 投擲後、倒れたり傾いたりしたスキットルを倒れた場所に立たせる。**スキットルの**底面が地面に接する点を固定したまま、その点を中心に直立させ、その後、**数字がモルッカーリに向くように回転**する。モルッカーリに近いスキットルから順番に立てていく。

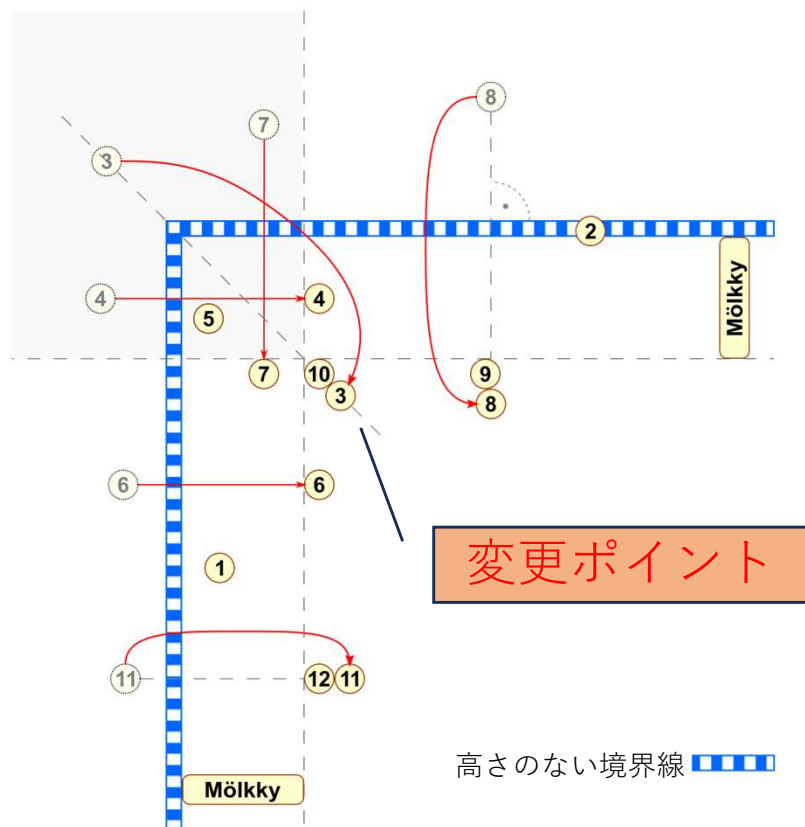
ポイント！

- **コートからでたスキットルは、倒れたもの**とみなされます。
(得点として数える対象となります。)
- スキットルを立てる場合に、数字をモルッカーリに向くように回転させてください。c



3.4.1 高さのない（平坦な）境界線の場合：

高さのない境界線はコートの一部である。「コート外」とみなすには、スキットルの底部が完全に枠外に出ていなければならない。



ポイント！

- スキットルのコートへの戻し方が一部変更。
- 基本的にはコートの外に出たスキットルは境界線からモルック1本分の部分に戻す。
- 以前と変わったのは左図の3番スキットル。
- エンドラインもサイドラインも超えたものは斜め45度の延長線上に戻します。
- モルッカーリに近いスキットルから順番に立てていきます。

5.8.モルッカーリの踏み越え

投擲するプレイヤーが投擲エリアに入場してから退場するまでの間に起こる以下の事例は、「モルッカーリの踏み越え」と判断される。

- ・モルッカーリを動かすもしくは触る。

例外:角度の修正

車椅子等に乗ったプレイヤーがモルッカーリを直線にして投擲した後に角度を戻す場合など、特別な場合を指す。

審判がない場合、モルッカーリの角度の修正は事前に告知しなければならない。
審判がいる場合、モルッカーリの角度修正は審判のみが可能である。

- ・モルッカーリの先の地面もしくはサイドラインを、体のいずれかの部分もしくは靴で触る。

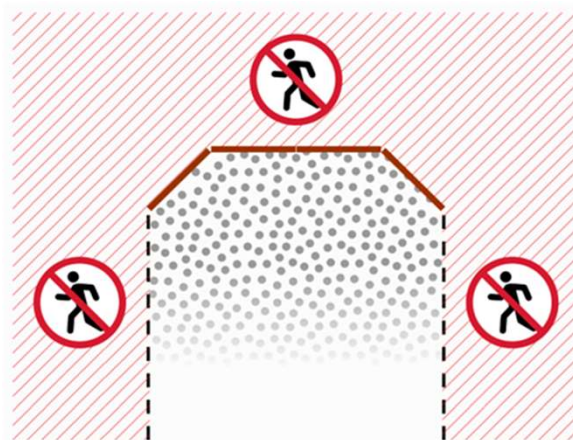
**投擲者は、何度も投擲エリアを出入りすることは認められる。
ただし、投擲後と同じルールの下で出入りが許可される。
(声をかけるなど宣言が必要)**

このルール違反を免れるために、投擲するプレイヤーは投擲後にそのまま一步後ろに下がることがベストかもしれない。プレイヤーは後ろを向いて投擲エリアを退場してもよい。

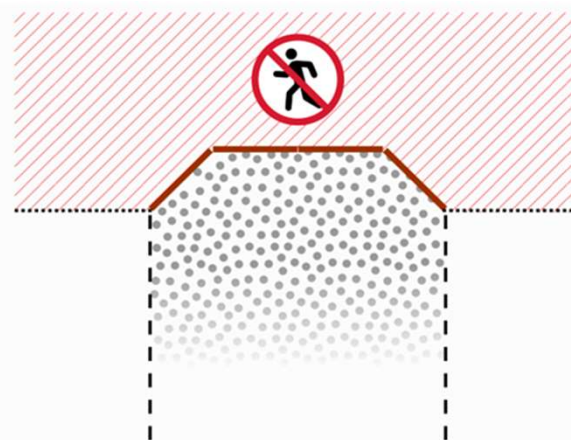
モルツカーリを越えなければ、スキttlを立て直す・スキttlの位置を確認するために、投擲エリア（点々の部分）を出ても良い。

（※JMA注釈：コート内に入るのは、審判の許可を）

モルツカーリの踏み越えは投擲ミスと判断される（0点）。外部の要因によって（押される等）、投擲者がモルツカーリに触れてしまった場合、審判は例外として認めることがある。ただし、1試合で1回のみ、1チームのみである。一方で、『フェアプレーの精神に反する』ファウルとみなされる可能性もある。モルツカーリを越えなければ、スキttlを立て直す・スキttlの位置を確認するために、投擲エリア（点々の部分）を出ても良い。



投擲中(モルック棒が手を離れ、停止するまで)



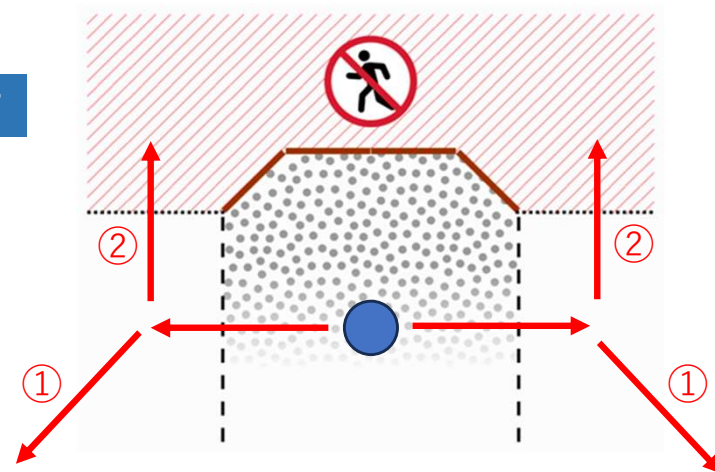
投擲後等

ポイント！

- 投擲エリアに入った投擲者は投擲エリアを出ることはできませんでしたが、新しいルールでは**何度も投擲エリアを出入りすることは認めらる**こととなりました。
- 但し、投擲エリアを出るときには**声をかけるなど宣言が必要**。
- モルツカーリを越えなければ、スキットルを立て直す・スキットルの位置を確認するために、投擲エリア（点々の部分）を出ても良い。
- **コート内にも入れませんが、審判の許可が必要です。**
(審判がないときは、相手チームの許可が必要)

投擲エリアからの出方

- ①退出するとき
- ②コートに入るとき





日本モルック協会
Japan Molkky Association

Smile with You

誰もが笑顔になれる。それがモルックです。

正しい知識とルールで、楽しくプレイしましょう。

